

### 南海トラフ巨大地震の津波断層モデル

- 発生しうる最大クラスの地震
- 発生頻度は極めて低い (内閣府公表資料より)

【ケース⑥「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+（超大すべり域、分岐断層）」を設定】

## 南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定について

### 今回の被害想定実施の考え方

- 国の被害想定 (H24. 8. 29) は、島ごとの被害状況が非公表となるなど不十分な内容  
⇒ 島ごとの詳細な被害想定結果を島しょ町村に提供し、防災対策の取組を支援

## ○ 津波高・浸水域、人的・建物被害などについて、国の南海トラフ巨大地震モデル (M9 クラス) を使用し検証

### 地震

国が示した複数の震源モデルのうちから、都にとって最もゆれが大きくなるモデルを用いて、都内の震度分布を想定

### 津波

国が示した複数の波源モデルのうちから、東京湾沿岸部及び伊豆諸島・小笠原諸島の島ごとに最大の津波高となるモデルを採用  
特に、島しょ部では、港ごとの最大津波高、浸水域について詳細に想定

## ○ 被害想定結果の特徴等

### <島しょの被害>

- ◆ ゆれや液状化などによる被害は小さい
- ◆ 津波高が高く、津波浸水域における建物被害や人的被害が想定される
- ◆ ただし、島の急峻な地形により浸水しない地域も多い

◎ 迅速に避難することができれば、津波による死者ゼロの可能性はある

- ほとんどの地域が震度5強以下
- 最大津波高は T.P. 30.16m、到達時間は15分程度 (新島)
- 建物の全壊棟数は、最大で約1,300棟  
うち津波による全壊棟数は約1,200棟
- 深夜の人的被害は、最大で約1,800人 (早期避難率が低い場合)

### <区部・多摩におけるゆれ・津波>

- ◆ 最大震度、液状化危険度、津波高などは、首都直下地震等の想定結果より低い

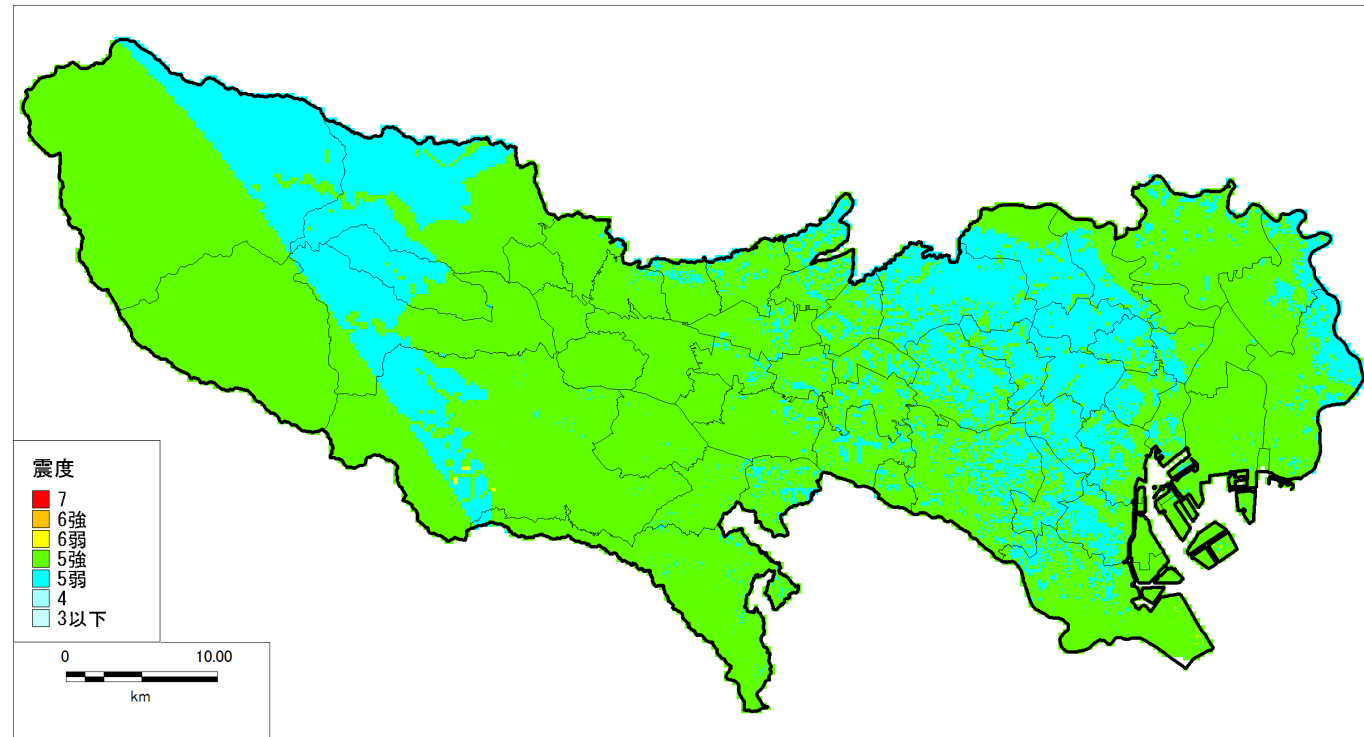
◎ これまでの対策を推進することが、南海トラフ巨大地震への備えとなる

- ごく一部で震度6弱が出るが、ほとんどの地域が震度5強以下  
(参考) 東京湾北部地震：震度7を含む6強以上の範囲が区部の約7割
- 最大津波高は T.P. 2.48m (江東区) で、元禄型関東地震の T.P. 2.61m (品川区) より低い

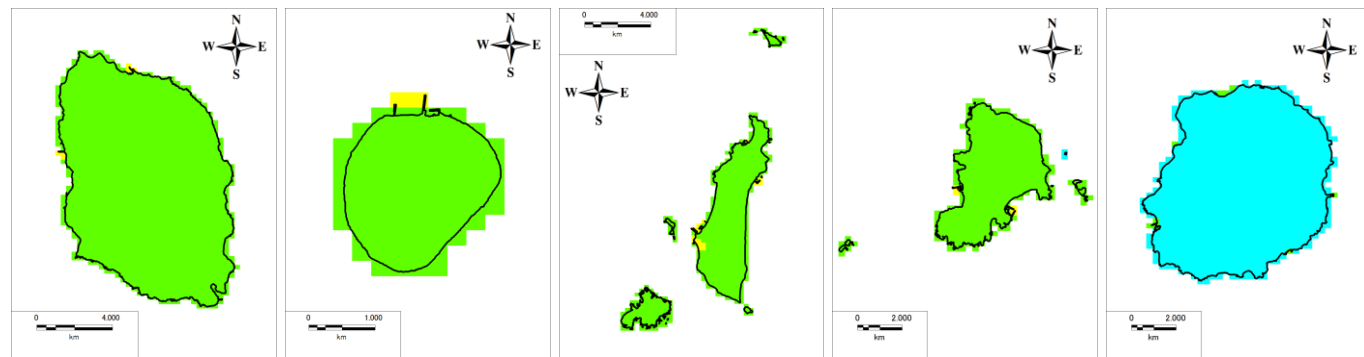
※T.P. = 東京湾平均海面、津波高はすべて地殻変動量を含む

# 被害想定結果の概要

## 震度分布



区部・多摩



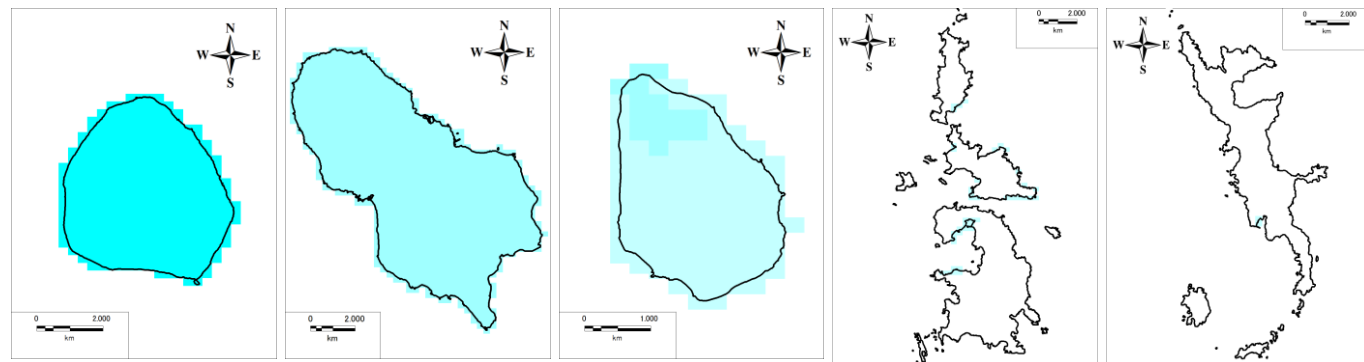
大島

利島

新島・式根島

神津島

三宅島



御蔵島

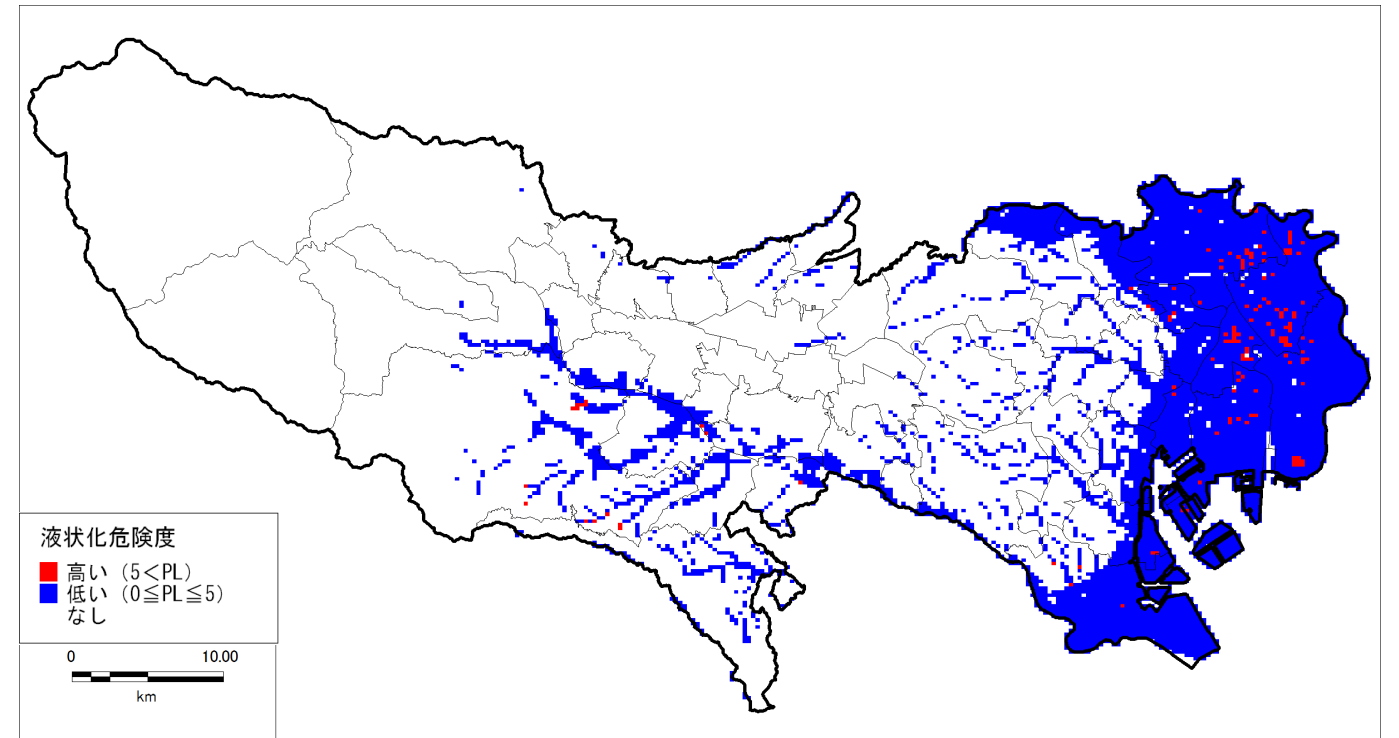
八丈島

青ヶ島

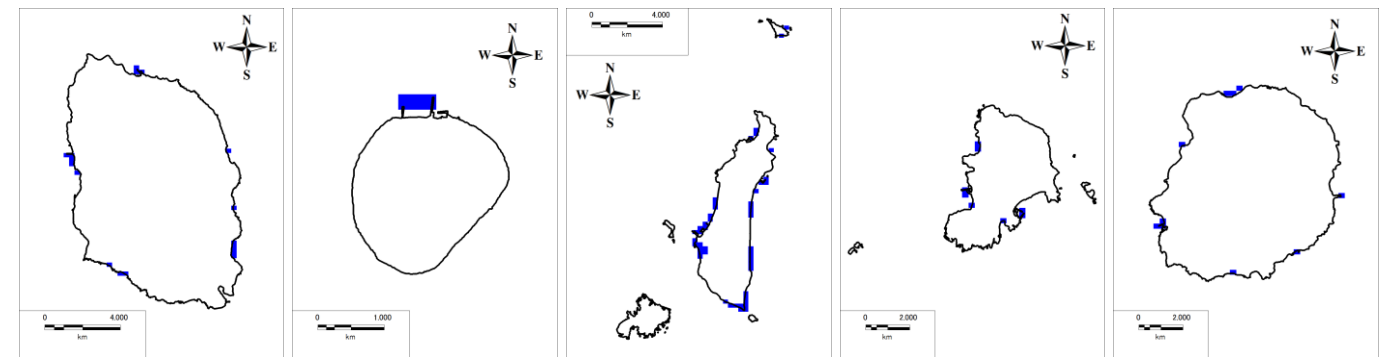
父島

母島

## 液状化危険度



区部・多摩



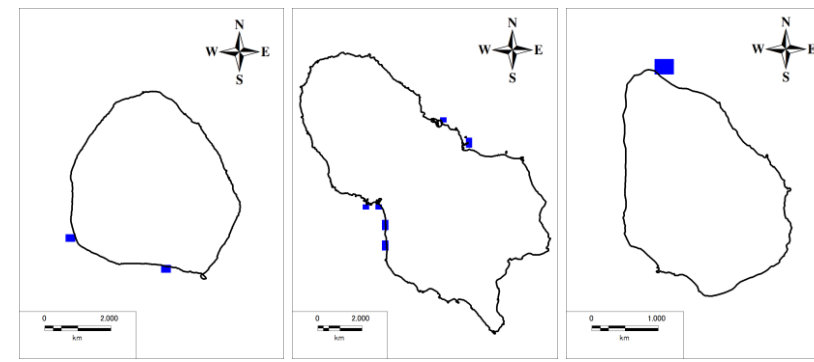
大島

利島

新島・式根島

神津島

三宅島

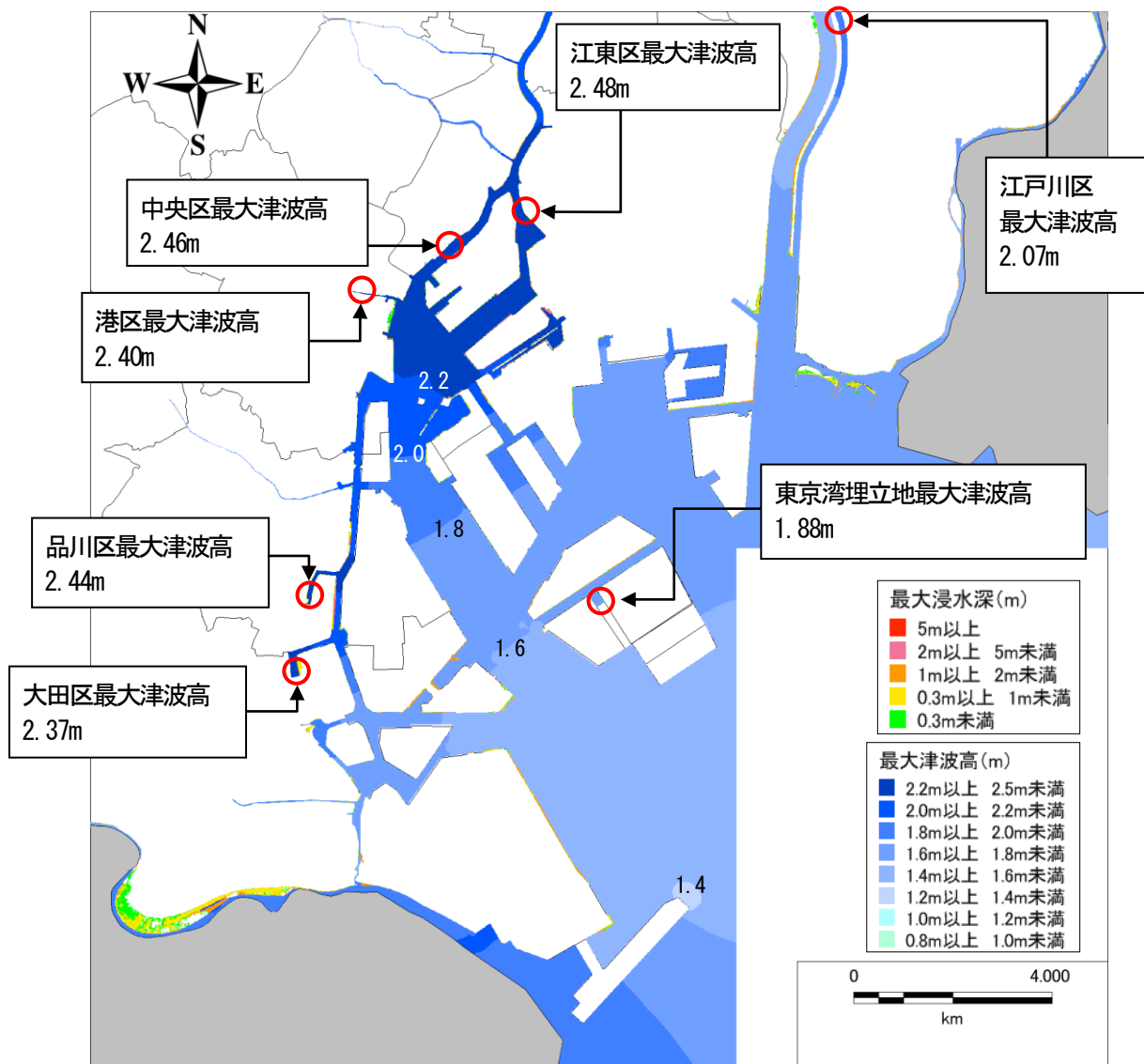


御蔵島

八丈島

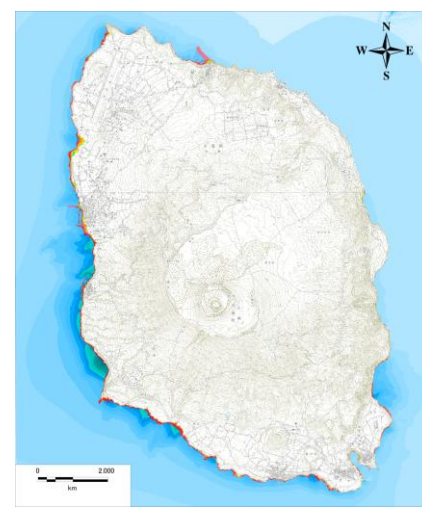
青ヶ島

# 津波高・浸水域

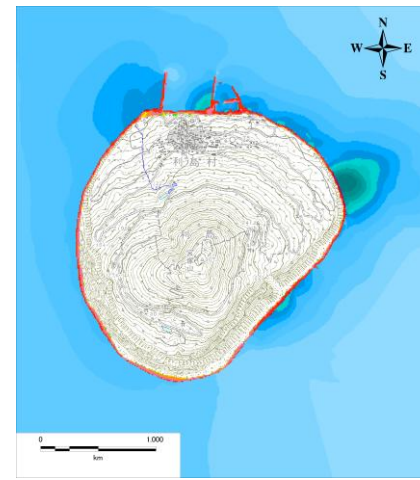


区市町村名	最大津波高 (m) 地殻変動考慮
東京湾埋立地	1.88
中央区	2.46
港区	2.40
江東区	2.48
品川区	2.44
大田区	2.37
江戸川区	2.07

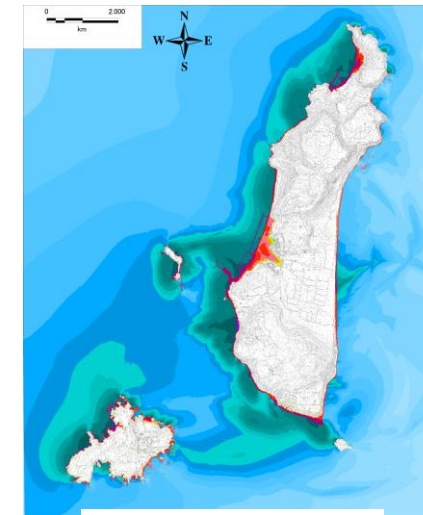
東京湾（水門閉鎖の場合）



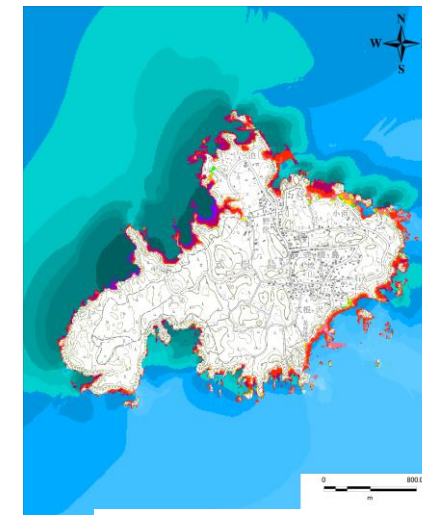
大島  
(2.19m~15.76m)



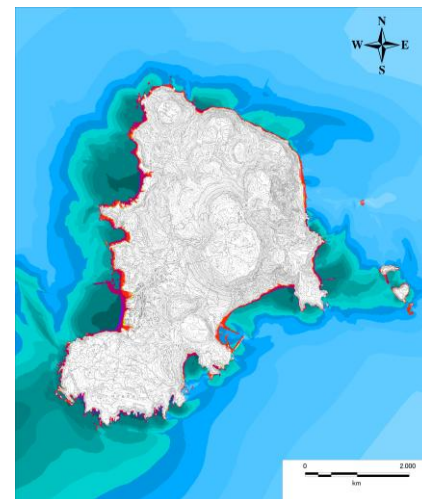
利島  
(5.16m~16.18m)



新島  
(4.97m~30.16m)



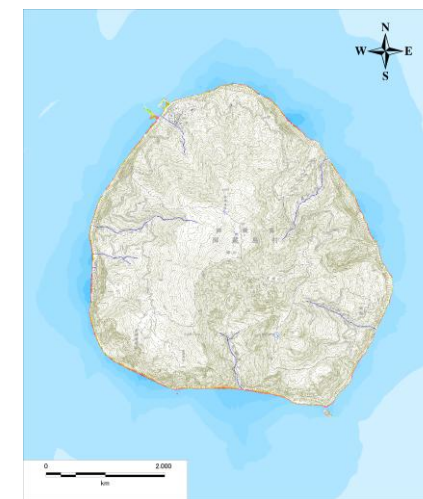
式根島  
(5.1m~28.15m)



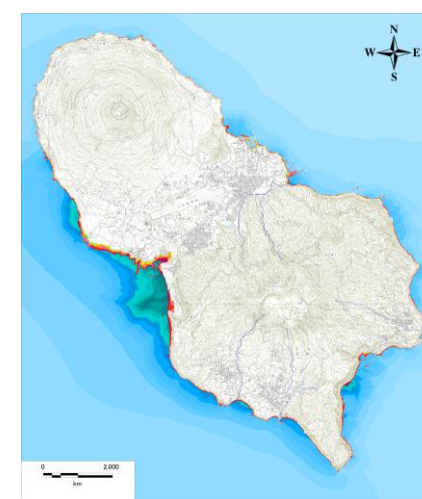
神津島  
(4.72m~28.43m)



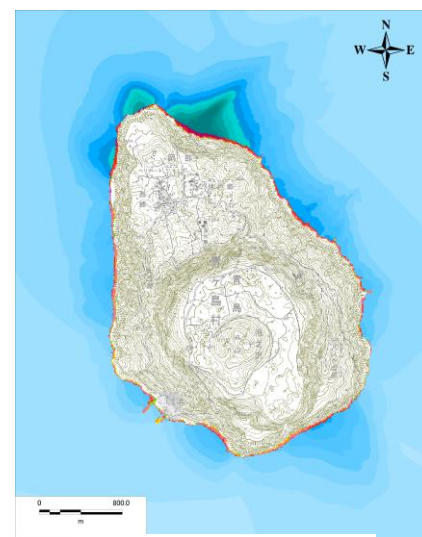
三宅島  
(3.22m~16.98m)



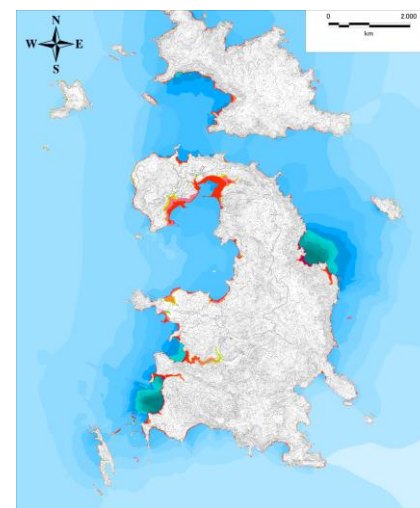
御蔵島  
(2.71m~7.37m)



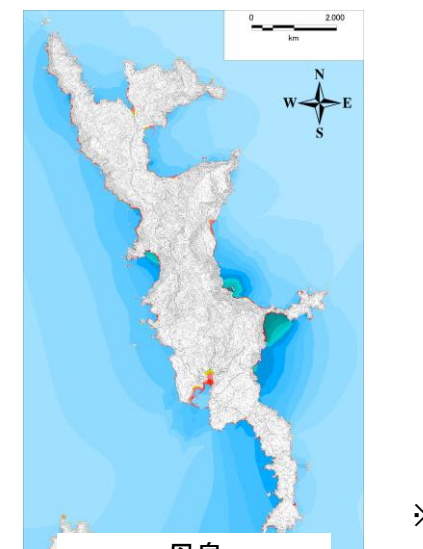
八丈島  
(3.28m~18.07m)



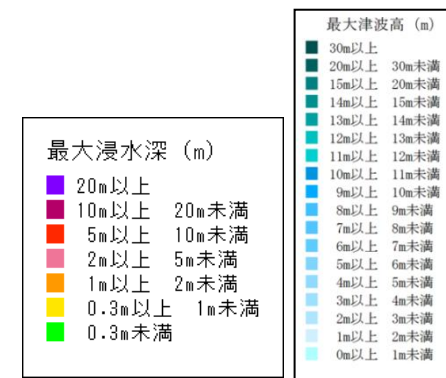
青ヶ島  
(3.48m~17.68m)



父島  
(1.91m~18.52m)



母島  
(2.9m~15.91m)



※ カッコ内は、その島の最大津波高の幅